

唐土割蒙圖彙

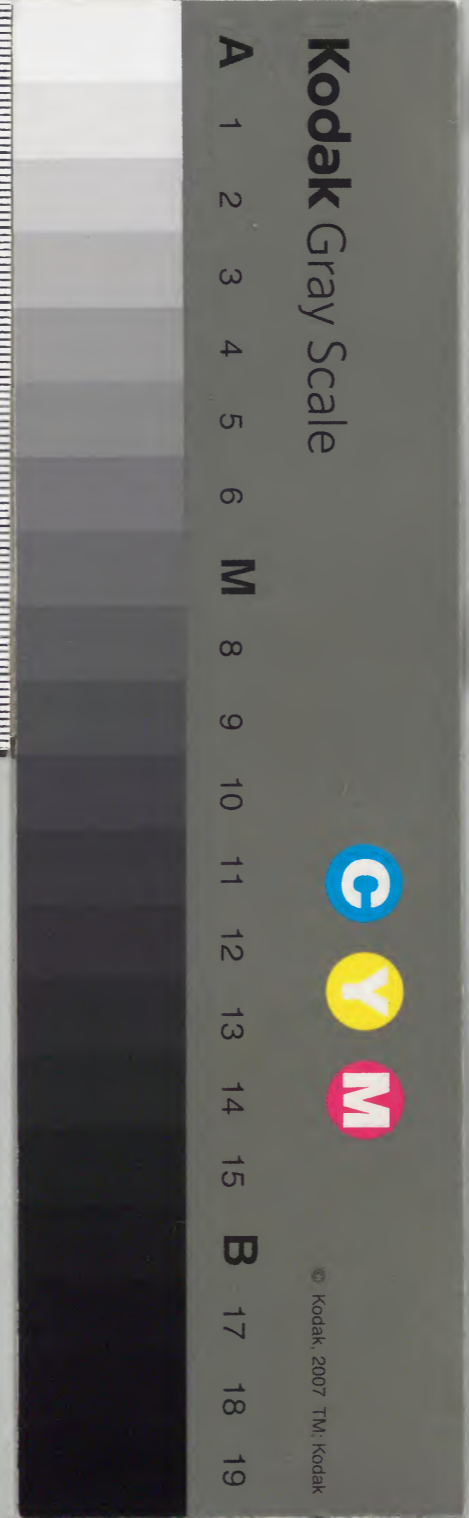
魚介蟲

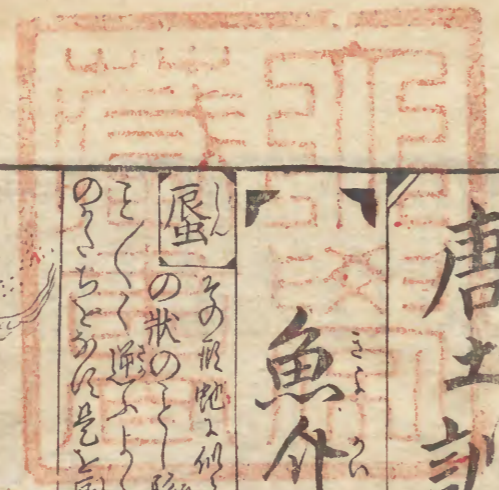
十四

64		一八六三	和書門
一五	一八	二七	類
冊	架	函	號

庫文閣內		和書類
一四	一六	二七
函	一五	冊
二四	架	號

內閣文庫	
番號	和 18637
冊數	15 (15)
函號	184 359





辰
 その龍蛇に似て大角ありて
 の状の如く鬣ありて海に下
 のうらとありて是と龍樹又海
 市といふ

應龍
 恭丘山下
 應龍あり
 翼ありて
 龍や心
 黃帝
 龍の野
 御
 あり



唐土訓蒙圖彙卷之十四

魚介蟲

以形の魚鱗甲殼虫のこゝに
 のせし乃みりり



鼉龍

狀守之太
知一丈五
背尾皆鱗
甲ありし
旁としら
といし
夜更し應
に



鹽龍

その長又
餘あり
銀盤と
し中王
乃盃を
御の御
と御
ふつと
才より
やと
おさ



斗牛

龍の類
甲あり
て但其
灣其
三形
類
陰雨
を



肥鱧

陽山の神
お身六足
四翼
其国大
早ひ
湯の内
あ



月蛇

物の類
雄の風上
此蛇
風下に
えよ
子騰蛇
飛地家
言除與
失其所



研木蛇

蛇つ
樹上
人
跳て
又樹
て
人の
と
た



蜺蛇

その形大
鹿山馬
錦織
雷加
膽と
一名南



青蛇

屏山
蛇あり
の高
高百
日野
と
数



鯢いし

形難し
似てを白
し鱗を
とく鯢の
なり於し
白湖
多

石斑魚いしばんぎょ

其狀白鯢
よりて黒斑
虎の
是月蛇と
交つ此魚
水面より
人の浮を
圖るに
よく入る

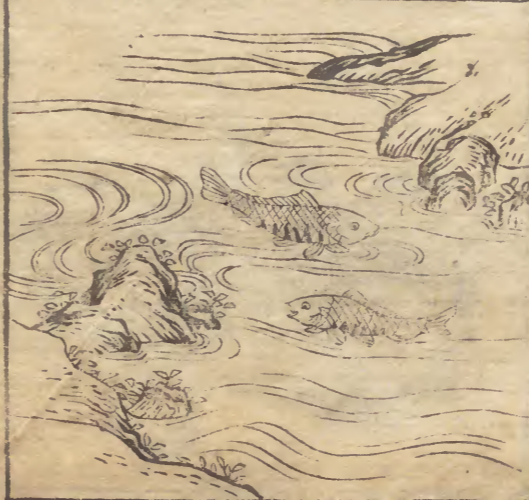


石鯢魚いしあじ

溪涧の中
上生は長
柄す北月
製後の下
わし勝
とて合
一名山バエ
山ブキハエ

吉加魚きちかぎょ

實は鯉子
して鯢と
鱗なり孔
肉くか
美なりい
魚丙空り
出川南都
賦あり

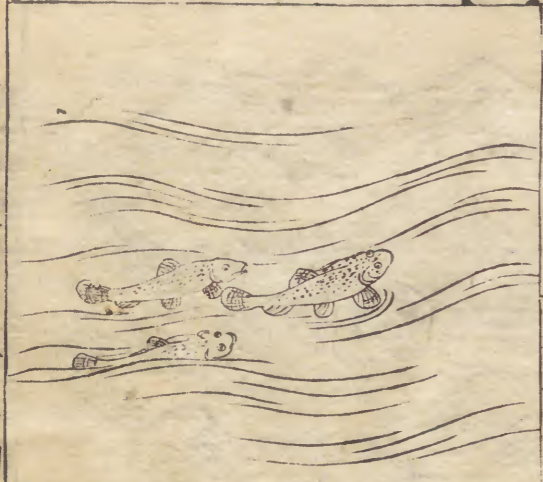


鰻魚うなぎ

狀ハ鰻
文赤尾水
中の遊
水豚
の
鱗

鱒魚ます

そのく
海魚ニ似
まのがけ
小魚なり
或は鱒魚
の苗なり
といふ非
お程わり



鰻魚うなぎ

狀鰻魚の
細鱗腹の
下ニ硬刺
ありて人
を刺れ
一名
東南海
四月

鱒魚ます

其狀鰻に
似て長ニ
尺あり
よりて肉
白
ひし武
玉の母
入し白魚
これなり



唐土訓家園景卷 十四

方頭魚

方頭魚 鱈魚の一種 鱈魚の骨 九一尾に岐あり 和名あまとい

金線魚

金線魚 鱈魚の一種 鱈魚の骨 九一尾に岐あり 和名あまとい



緋魚

緋魚 鱈魚の一種 鱈魚の骨 九一尾に岐あり 和名あまとい

火燒鱈魚

火燒鱈魚 鱈魚の一種 鱈魚の骨 九一尾に岐あり 和名あまとい



肋魚

肋魚 鱈魚の一種 鱈魚の骨 九一尾に岐あり 和名あまとい

玉竹筋魚

玉竹筋魚 鱈魚の一種 鱈魚の骨 九一尾に岐あり 和名あまとい

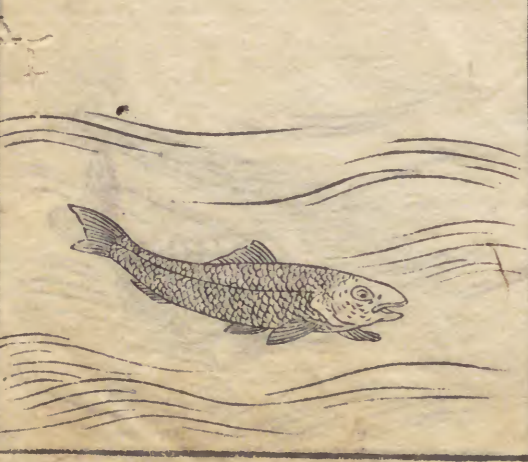


大口魚

大口魚 鱈魚の一種 鱈魚の骨 九一尾に岐あり 和名あまとい

竹魚

竹魚 鱈魚の一種 鱈魚の骨 九一尾に岐あり 和名あまとい



鱖魚

狀鱖の如
みして頭
小は形扁
けは細
鱖腹肥
とと家も
白
一名連魚
とつ



鱖魚

その状輕
似てとと
と家大
なり目乃
旁に骨を
とと名は
とと臭尸
の



鱖魚

舟に鱖
似ては年
は鱖は似
て大に類
を
船に似て
とと鱖ハ
鱖に似く
細なり天
や老三三
十けり



黒頭魚

狀は鱖子
と形は長
くくろく
民馬して
善の如
鱖に似
二三及あり
一名北才
魚



鞋底魚

狀牛脚乃
の鱖底のじ
細鱖紫白
色しして
半斤のとく
を目ん色
あり
俗に
の



華臍魚

狀の如く
大けり
盤の如
吳都賦曰
琵琶魚鱗
而形似琵琶
和ニ鱖ト
名非ナリ



鱖魚

飛ハ馬鞭
1似り
尾は岐る
とわく
肉白
或ハ嘴の
長も
鱖タコト
鱖



鱖魚

狀長く体
固く尾
おひ
尾は岐る
古わ
尾は岐る
尾は岐る



丹魚

丹魚の
尾の如
色丹の如
金をり
鉄魚の状
同く



鯽魚

その状鯽
上似て小
三と平
二お二後
一あり俾
新のこ
故に魚
鯽魚あり



鯽魚

鯽魚の
肉厚
鉄細は
鉄文あり
小魚の
沙を吹く
わき子の
巧み



彈塗

一名の關明
形小鯽
似て短
大なり者ハ
長三五寸
潮退て干
百様に
して



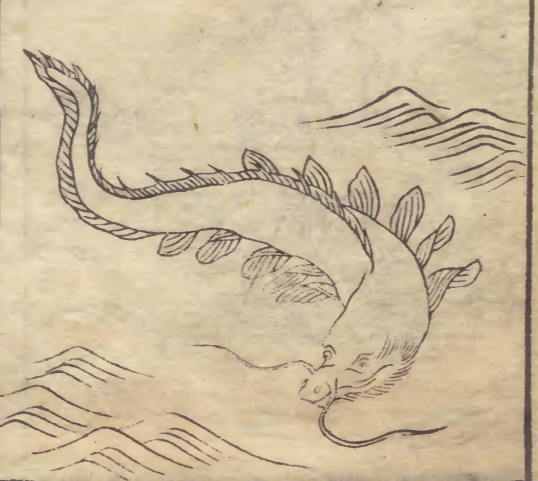
牛魚

牛魚の
状ハ體乃
骨
斑文あり
腹の下
牛子似
とけて名
鯽の属



海龍

海龍の
状ハ龍乃
骨多
骨カ
その味
佳なり
明海甲
出



龍魚

龍魚の
形ハ龍
似く色白
鼻ハ
口頷の下
あり腰
骨ハ
脊子肉
紫あり



龍魚

龍魚の
状ハ龍乃
骨多
骨カ
その味
佳なり
明海甲
出



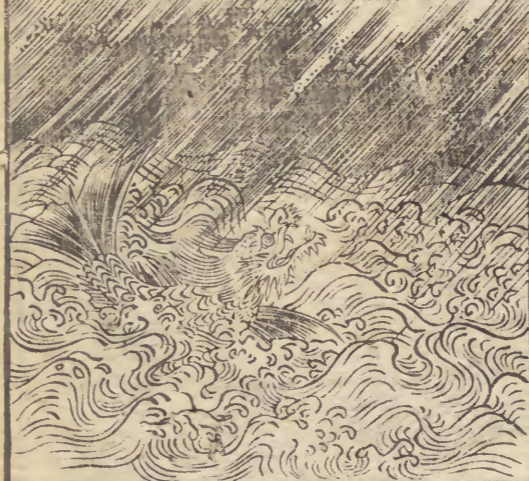
胡鯢

そのまゝ
くつて背
上へ海を
大りうもの
長又厚
小るもの
三み尺を
繁流の



鳩尾

狀ハ龍
浪と激
内なる
より故
屋上の瓦
像と作
火災と厭
かり嵐
鳩吻



神龜

夏の禹王水
と浴玉小時
洛水より
龜かこる
其甲より
文ありて字
畫の形
禹王と
船て九龍
の港に
今



救龜

日かり亀
の東岱輿
員嶠方壺
瀛洲蓬萊
の五山あり
巨龜首と
仰てあれ
まの



躑躅出

出れり
玳瑁と交
交米あり
その甲を
てト
碑の
負鼎と同
玳瑁の雌



瘡龜

い海
石下よ
偏頭大
老瘡と
或病人
外に知
掛かり



玄龜

相陽山北
怪水河出
東注水中
玄龜多
其狀鳥
首鹿の尾
音破水の
舟の



攝龜

一名鳶龜
腹小
中心換
能自ら
圓川
蛇と
故甲
龜



珠鼈

葛山澤
中に多し
其狀六目
ありて六足
あり腹内
二珠あり
其味甘く
酸し食
時氣と避
へ



電鼈

その形鼈
のく大さ
は人より
倍あり其
甲は五珠
文線あり
玳瑁の如
し其の卵
玳瑁の如
し



鼈

くくく鼈
くくく之
足なり其
甲は呉興
郡陽羨
縣君山
池あり其
の鼈多
し



元鼈

狀鼈
似て寂大
甲の背は
臘腹あり
其の卵は
鼈の卵の
如し



蟹

その形蟹
ありてその
蟹一対は
大よ一対は
小よ一対は
蟹の脚小
蟹の脚を
含ふその
蟹赤



鬼蟹

飛つて蟹
ありて甲は
人面の狀と
なり其の
和云々を
カニシムラ
カニヤシカニ



百足蟹

善草園
百足蟹あり
その長九尺
ありて蟹
の脚あり
て膠あり
鳳喙膠
草木子



螃

その形蟹
ありて脚は
毛あり其
沈田港に
中し其を
故に毒あり
招潮子
小蟹ありて
穴とて潮
のいゝとわ
つたりて其
わけを其
くさくさ



海鏡

此散る斤の肉一斤の赤く一斤の白く一船の舞の舞之

臧

海岸の石より著て生れ肉の飛躍又味も



標雞

一名紅子六足一翅あり外翅灰黄一翅斑點あり肉翅のみさお

鵲

その名は前方り廣く冠を輝く似て鳥の鳴声は清亮なり一名の寧母

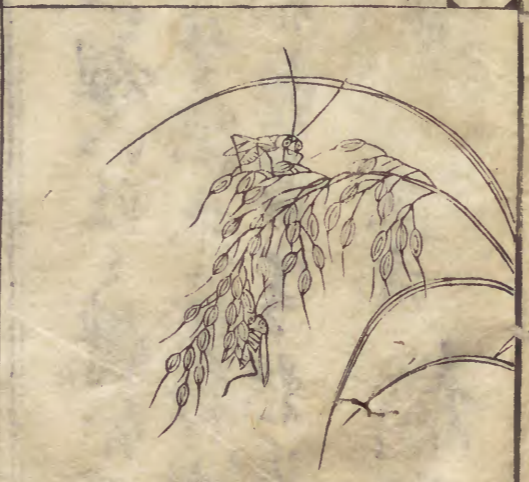


螟

蝗と同じ苗ごとく淮南子曰法令と柱を蟲類多しといつり今全穀を以てとらふ

菊虎

その形蟻了り似たり菊の苗を合せて其菊の宿根より化すといふ小虫



敬

飛ハ水龍の如く八足ありて長尾なり節ありて色は青なりと云ふ人々を毒虫なり

蟻

能覺其長之守其色黒し背と甲ありその角者いふは氣と云ふ人々を毒虫なり



水虎スイコ 狀三四歳の
小児の如く
甲の鱗あり
河工に曝し
政の虎に似
たり掌の爪
と水に似し
勝と出し
人より小
児を先後
愛む



謝豹シヤウハク 此物三寸許
出てじつじ
船と抱て死
し人の魂
とかりて
故に抱て死
したるは
面と抱て死
したるは
唐の長成衣
の説なり



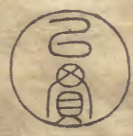
無三祖六法之傳。皆不能以通神矣。嗚呼才
令所塗抹。未免伸由之木。初。照君之惟懼
之病。親者宜怒焉。

浪華

畫者 橘有稅



多識於鳥獸草木之名。此博知之事。學者之
所宜潛心也。此書就天地人物。圖之說之。裁
為小冊。孰不珍焉。本邦向有訓蒙圖彙。今所
収載。皆拾其所遺。觀者幸毋以依樣畫葫蘆
貽嘲。專庵頃有此選。予與校讎。因附一辭于
卷尾云。享保己亥。攝江穗積。以貫伊助。甫跋。



享保己亥歲
孟陽吉旦 書肆

大坂安堂寺町心齋橋
大野木市兵衛
江戸日本橋南三丁目
須原茂兵衛

